



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織  
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 110) uniwish37号 (2021年8月)  
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号  
(電話・FAX) 0952-28-2077  
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00  
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp  
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>  
facebook <http://www.facebook.com/unicef>



## 紛争や自然災害などで子どもたちが命の危機にさらされています。

### 【アフガニスタン 紛争】

人口の半数におよぶ人道支援ニーズ  
今年すでに子ども2000人近くが死傷



【2021年8月17日 ジュネーブ発】

アフガニスタンの子どもを取り巻く状況は、ここ数週間で大きく悪化、危機的なものになってきています。

ユニセフはこの中でも、子どもたちと家族への支援を続けています。

アフガニスタンの子どもたちの現状について、国連の定例記者会見においてユニセフ(国連児童基金)アフガニスタン事務所緊急オペレーションチーフのムスタファ・ベン・メッサウドが報告した概要は下記の通りです。



この2週間、私はカンダハール、ヘラートに赴き、そして現在はカブールにいます。怪我をした子どもや重度の栄養不良の子どもなど、戦闘の直接的な影響を目の当たりにしてきました。生後10カ月ほどの乳児もいました。子どもたちのこのような姿に、言葉ありません。

先週、私たちはカブールの国内避難民キャンプに入り、ユニセフの移動式保健チームの活動を見てきました。ここ数日は活動の停止を余儀なくされていましたが、まもなく再開できると期待しています。対応すべき支援ニーズは膨大です。

実際、今年に入ってから、550人以上の子どもが命を落とし、1,400人が負傷しています。「アフガニスタンの子どもと武力紛争に関する国連事務総長第5次報告書」によると、今年上半期の子どもの死傷者数は、国連がアフガニスタンで記録を開始して以来、最多となっています。

© UNICEF/UN0498792/UNICEF Afghanistan  
悪化する暴力から逃れるために故郷を離れ、国内避難民キャンプに滞在する1歳のアスマちゃん父親 (2021年8月5日撮影)

### 【ハイチ 地震】

子ども54万人含む約120万人が被災  
衛生、医療等の緊急支援



### 自然災害緊急募金

ハイチでマグニチュード7.2の地震発生  
新型コロナウイルス、ハリケーン、地震...  
いくつもの危険にさらされる子どもたち



【2021年8月17日 ポルトープランス(ハイチ)/パナマシティ発】

最も被害の大きかった南(South)県、ニップ(Nippes)県、グランダンス(Grand'Anse)県は、熱帯性低気圧「グレース」がさらに襲い、水浸しになっており、水、避難所、その他の必要不可欠なサービスの利用がさらに妨げられています。洪水や土砂崩れは、厳しい状態にある家族の状況を悪化させ、人道支援をより困難なものにさせています。

現在、捜索・救助活動が行われていますが、公式発表によると、死亡者数は1,400人以上、負傷者数は7,000人以上となっています。8万4,000棟以上の家屋ならびに病院、学校、橋などの公共インフラが損傷・損壊しました。

現在レカイ(Les Cayes)に滞在しているユニセフ・ハイチ事務所代表のブルーノ・マースは下記の様に述べています。

© UNICEF/UN0562603/AFP

「昨夜は、すでに地震の影響を受けた同じ地域を強風と大雨が襲うのを目の当たりにしました」「地震ですべてを失った数え切れないほどのハイチの人々が、洪水のために文字通り足が水に浸かった状態で生活しています」「現在、約50万人のハイチの子どもたちが、避難所、安全な水、保健・医療、栄養などへのアクセスが制限されているか、まったくない状態にあります」

「暴力犯罪や治安の悪化が人道支援を困難にしており、ポルトープランスから南部への主要道路はギャングに支配されています。それでも、ユニセフは地震発生から数時間以内に被災地に医療品を届けることができました。ユニセフのトラックは、手袋、鎮痛剤、抗生物質、注射器など、3カ月間で3万人の被災者を治療するのに十分な物資が入った6つの医療キットを、レカイにある3カ所の病院に届けました。」

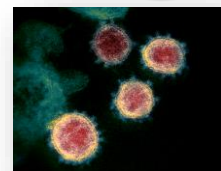
# 2020年～2021年、世界中の子どもたちの生活を大きく変えたもの



## ★ 新型コロナウイルス: 休校 世界中で休校の影響を受けた子どもは15億人

- 1億6800万人の子どもたちは休校が1年以上続く
- 3分の1の国が補習教育未実施
- 2020年、平均で授業日数の40%を喪失

【 COVID-19 】



これはベトナムの写真ですが、こうして、コンピュータがあったり、インターネットがつながっていたりする地域では、オンラインで授業を行う学校もありました。



一方で、インターネットもコンピュータもまだないという地域もたくさんあります。

これはエチオピアの写真ですが、この男の子はラジオから流れてくる授業を聞きながら勉強を続けました。

## ★ 学校再開・・・感染予防の取り組み



感染予防対策をして、ようやく学校が再開されました。  
 左上は、日本(マスクをつけて登校する子どもたち)  
 右上は、コートジボワール(ソーシャルディスタンスを確保した教室でマスクをつけて学習する子どもたち)  
 下は、ベトナム(ソーシャルディスタンスを保った登校前の検温)

## ★ 新型コロナウイルスを予防する手洗いができない！

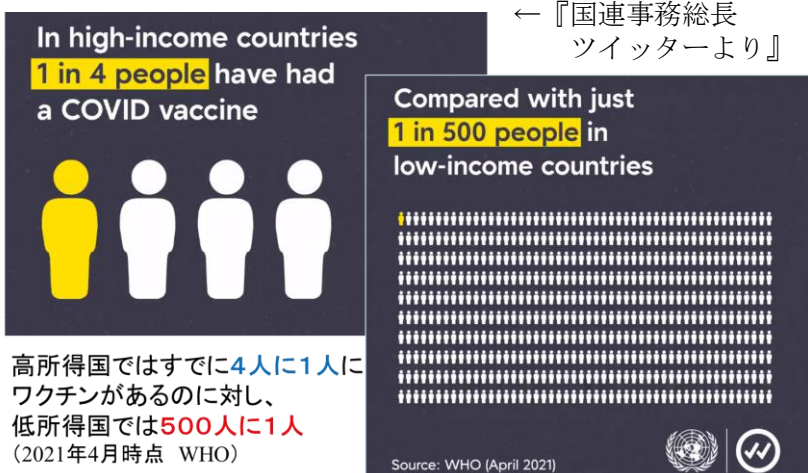


世界の学校の43%に  
石けんで手洗ができる  
設備がない

これはコートジボワールの学校の写真ですが、校門のところに急ごしらえで手洗い場を作っています。

実は、世界の30億人の人は家に「手洗い設備」がないという統計があります。一番の予防法である手洗いさえ身近にできるものではない、そんな環境で暮らす子どもたちもいます。

## ★ ワクチンの手に入りやすさにも格差が



このデータを見て、今の世界は、同じ問題に直面しても、命を守る方策を取れるかどうか、教育が続けられるかどうか、子どもたちが手にできるチャンスには、その暮らす環境、国や地域によって、差があるという現実があります。

## ★ 子ども達の予防接種にも影響が

2020年は、予防接種サービスの混乱が広範囲に及び、東南アジア地域と東地中海地域が最も影響を受けました。

保健サービスや予防接種を受ける機会が減少し、すべての地域で初回の予防接種さえ受けられない子どもの数が増加しました。

2020年に定期予防接種による基本的なワクチン接種(はしか、破傷風、ジフテリア、百日咳、ポリオ、結核等)を受けられなかった子どもは**2300万人**  
 2019年よりも370万人増加



資料提供：日本ユニセフ協会

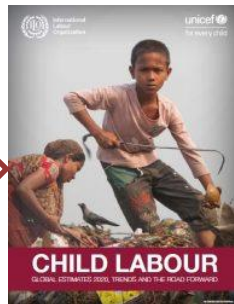
# 世界の児童労働が20年ぶりに増加、コロナ禍で悪化も

## 《ユニセフ・ILO報告書》

児童労働、世界で1億6,000万人

過去20年で初の増加、新型コロナ影響でさらに増加予測

『児童労働：2020年の世界推計、傾向と今後の課題』



ILOとユニセフは4年ごとに世界の児童労働の実態を報告にまとめている。児童労働に従事している子どもの数は2000年に2億4600万人に達したが、2016年までには1億5200万人に減少していた。しかし、10日に公表された最新報告によると、2020年はこの減少傾向が一転、特に人口増加や貧困が広がっているアフリカが最大の増加率を示した。

【2021年6月10日 ニューヨーク／ジュネーブ発】

ユニセフ（国連児童基金）と国際労働機関（ILO）が発表した新しい報告書『児童労働：2020年の世界推計、傾向と今後の課題』は、児童労働に従事している子どもの数が過去4年間で840万人増加して世界で1億6,000万人に上り、さらに数百万人の子どもの子どもたちが新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で新たに児童労働に従事させられるリスクに直面していると指摘しました。

また、COVID-19による経済的ショックや学校閉鎖の影響で、すでに児童労働に従事している子どもたちの労働時間が長くなったり労働条件が悪化したり、厳しい状況にある家庭が仕事や収入を失うことで、さらに多くの子どもたちが最悪の形態の児童労働を強いられる可能性があります。

ユニセフ事務局長のヘンリエッタ・フォアは、「私たちは、児童労働との闘いに敗れようとしています。昨年、その闘いは厳しいものでした」と述べています。

「世界的なロックダウン、学校閉鎖、経済の混乱、国家予算の縮小などが2年目に入った今、家族は辛い選択を迫られています。私たちは、各国政府や国際開発銀行に対し、子どもたちを労働から解放して学校に復帰させるための支援プログラムや、そもそも家族が子どもに労働をさせるといった選択をしなくて済むような社会的保護プログラムへの投資を優先させることを強く求めます」とも述べました。



© UNICEF/UNI394756/De jongh  
首都ワガドゥグ郊外の鉱山で働く子ども。  
（ブルキナファソ、2020年9月撮影）

2020年度、皆様からお預かりした募金は、右の活動に充てられました。ご支援ありがとうございました。

## みなさまが支えたユニセフの活動

2020年度に日本ユニセフ協会がみなさまからお預かりしたユニセフ募金の総額は、

**224 億 88 万円。**

その83.1%（186億2,000万円）はユニセフ本部を通じて世界の支援プログラムに、16.9%は日本国内でユニセフや子どもの問題への理解や支援を広げる活動、日本の子どもたちの権利課題の解決に向けたアドボカシー活動などに充てられました。

- ▶ より多くの支援を得るための 募金活動
- ▶ 子どもたちの問題とユニセフの活動を広める 広報活動
- ▶ 子どもの権利に関する啓発と課題解決に取り組む 啓発・アドボカシー活動

日本国内でのユニセフ活動を支える

世界の子どもたちへ

**83.1%**

世界のユニセフの活動を支える

**186 億 2,000 万円**

拠出の内訳 >>>

通常  
拠出 **78.2%**

日本から世界へ **145 億 6,859 万円**

使用を限定することなく、ニーズに応じて様々なプログラムに活用することができる通常予算への拠出。厳しい状況にありながら、世界の注目を浴びることのない国々の子どもたちへの支援を可能にし、中長期的な活動を支援します。

国内の  
活動へ

**16.9%**

緊急  
拠出 **10.5%**

日本から人道危機下の国々へ  
**19 億 5,026 万円**

絶え間ない紛争や自然災害、感染症の流行、食料危機など、緊急に支援が必要な深刻な危機に対処するためにご支援いただいた緊急・復興募金からの拠出。

指定  
拠出

**11.3%** **21 億 115 万円**

日本から26カ国・地域へ  
水と衛生、教育、HIV/エイズなど特定の活動分野や、国・地域を指定してご支援いただくなど、特定の支援活動を複数年にわたって支えていただく指定募金からの拠出。





○ 6月29日(火) 長崎市立小ヶ倉中学校 平和学習 出前授業  
10:45~12:20 (3・4校時) 総合的な学習の時間  
中学3年生 58人 学年共有スペース  
テーマ 『平和な世界を実現するために何ができるか』

○ 6月29日(火) 長崎市教育局委員会 訪問  
13:30~14:00  
\*佐賀県ユニセフ協会の長崎市立  
学校における授業の実績報告  
\*ユニセフの活動紹介(資料参照)



○ 7月2日(金) 鳥栖市立鳥栖小学校 「平和学習」 出前授業 14:35~15:20 6校時  
○ 7月9日(金) 鳥栖市立鳥栖小学校 「SDGsについて知ろう」 出前授業 14:35~15:20 6校時  
6年生 123人 4クラス(総合的な学習の時間)  
\*7/2 平和学習 「平和な世界をつくるために」  
\*7/9 「SDGsについて 知る 考える 行動する」



○ 7月6日(火) 大町町立小中一貫校大町ひじり学園 募金贈呈 及び「平和学習」 出前授業 8:20~8:50  
\*ひじり学園前期課程の児童による募金贈呈  
\*5年生~6年生 92人 (1年生~4年生は、コロナ感染予防のため録画を視聴)  
\*テーマ: 「世界の子どもたちとユニセフ」(平和学習)  
~世界の子ども達のことを知り、平和や自分にできることを考えよう~



○ 7月13日(火) 佐賀市立富士中学校 「SDGs学習」 9:35~11:30 2・3校時  
\*テーマ: 「だれでもできるSDGs」  
~持続可能な世界をつくるために~  
\*富士中学校 1・2・3年生 (41人) <体育館>



○ 7月18日(日) 「2021 ユニセフ シアター」 13:30~16:00 (P6に詳細を掲載)  
\*ミニ講話「アフリカの元子ども兵士が教えてくれたこと」30分 テラ・ルネッサンス 佐々木純徹氏  
\*「風をつかまえた少年」上映 110分  
\*参加者: 55人  
<佐賀市立図書館多目的ホール>



○ 8月3日(火) 佐賀県立小城高等学校 2年生(5名) 事務所訪問 募金贈呈 &ユニセフ学習 13:30~15:00  
\*学校で集めた募金の贈呈  
\*フレンドネーション募金立ち上げのための「ユニセフ学習」  
\*テーマ: SDGs 6番『水と衛生』について  
ユニセフ活動を通して世界の子ども達の現状を知る



○ 8月6日(金) 白石町立須古小学校 「平和集会」 出前授業  
8:45~9:20 <体育館>  
\*テーマ: 平和集会「世界の子ども達について知ろう」  
\*1年生~6年生 110人 先生方10人



- 8月6日（金）～8月9日（月） 第30回「佐賀市平和展」 10：00～17：00 （P7 に詳細を掲載）  
 <佐賀市立図書館ロビーギャラリー>

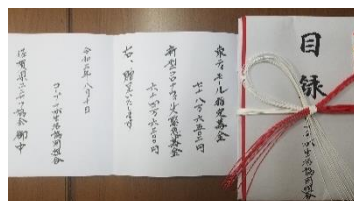
《ユニセフの展示・体験コーナー》

- \*地雷レプリカ展示 「地雷ってどんなもの？」
- \*パネル展示  
「ユニセフによる戦後日本の子ども達への支援」
- \*SDGsの広報  
SDGs広報パネル、SDGsサイコロづくり  
SDGsすごろくゲーム



- 8月10日（火） コープさが生活協同組合より募金贈呈 <佐賀新聞社 応接室>  
 \*2021年度 ユニセフ募金の内訳

- ★東ティモール指定募金 ￥786,502円
- ★新型コロナウイルス緊急募金 ￥646,300円



**ご支援  
ありがとうございます**

コープさが生活協同組合様、国際ソロプチミスト佐賀西部様、佐賀県立小城高等学校様、佐賀市立開成小学校様、大町町立小中一貫校ひじり学園前期課程様、母子草様、平尾建築コンサルタント事務所様、

池田内科・皮膚科医院様、佐賀リハビリテーション病院様、田中電子工業K・K様、佐賀医科大学基礎研究管理棟様、ヘルスランチあららぎ様、佐賀市立図書館様、大塚製薬K・K様、サンテ溝上病院様、ゆめプラット小城様、鳥栖市民活動プラザ様、栗山内科様、佐賀市子ども家庭課様、妙福寺様、佐賀市立循誘公民館様、唐津土建工業株式会社様、コープさが生協新栄店様、北川眼科様

（順不同：2021年4月24日～2021年8月31日）

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。  
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。

**募金や使用済切手、使用済インクカートリッジなどの  
ご支援、ありがとうございます。**



**賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。**

（公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。）

**日本ユニセフ協会賛助会員とは**

**賛助会員の種類と期間**

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
  2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
  3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ✪詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



ユニセフ・シアター 

## 風をつかまえた少年

実話ベストセラーを映画化！

### 2021年 『ユニセフシアター』

※ 2021年7月18日（日）  
13：30～16：00  
※ 会場：佐賀市立図書館  
多目的ホール

**参加者数 55人**

◆『風をつかまえた少年』は、実話を本にしたもので、この本は瞬く間に話題となり世界23カ国で翻訳され、ベストセラーになりました。本作の舞台となるのは、2001年に大きな干ばつが襲ったアフリカの最貧国マラウイ。貧困のため通学を断念した14歳の少年ウィリアム・カムクワンバが、図書館で出会った1冊の本を元に、独学で廃品を利用した風力発電を作り上げ、家族と自身の未来を切り開いた実話をベースにした映画です。

## 《ユニセフシアター》

## 『テラ・ルネッサンス ミニ講話』25分 & 『風をつかまえた少年』上映 110分

### 【具体的内容】

- ★テラ・ルネッサンス 佐賀事務所 佐々木純徹 氏  
『僕13歳、職業兵士、アフリカの元子ども兵が教えてくれたこと』
- ★ユニセフ シアター 『風をつかまえた少年』
- ★パネル展示 長谷部誠大使のギリシャ難民キャンプ訪問  
「すべての子どもに、夢を」

◆新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期していたユニセフ シアターを2年ぶりに実施することができました。

イベントのプロローグとして、NPOテラ・ルネッサンスの佐々木純徹さんからは、「紛争や貧困の中、多くの子ども達が職業兵士となり、教育も受けられず過酷な状況を強いられている子どもが約3万人もいる現状」や「子ども兵士の60%が男子、40%の女子も兵士として使われている現状」などについて話をしていただきました。



【講話をする佐々木純徹さん】

また、テラ・ルネッサンスでは、15年前からアフリカや東南アジアにおいて「元子ども兵社会復帰支援プロジェクト」を立ち上げ、基礎教育や職業訓練などを3年間実施し、子ども兵士の社会復帰の支援活動をされている話なども聞かせていただきました。

最後に、佐々木さんは、“支援の成果は大きく、一人一人に未来をつくる力がある”と力強く語られました。

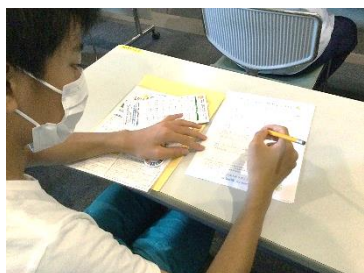


【『風をつかまえた少年』を見る参加者】



【会場でのパネル展示】

### ◆皆さんの感想◆



【アンケート記入の様子】

### 『僕13歳、職業兵士、アフリカの元子ども兵が教えてくれたこと』 感想

- 少年兵は望んで兵士になっている子ばかりだと思っていました。知らない事実を知ってショックでした。無知であることはこわいと思いました。40代
- 世界の情勢の中で、なかなか情報の少ない地域の子どもの兵士について、考えられない厳しい現実を知ることができた。50代
- 今何が必要かといえば、「人権」人が人間らしく生きること、平和の礎は、やはり、どちらが先というのではないが、やはり、生きている「命」の大切さを感じた。60代

### 『風をつかまえた少年』 感想

- がんばればいろいろなことが出来ることを学ぶことができた。10代
- 絵本は知っていましたが、映画はより現実的で、涙が出ました。実現する力がすごいなと思いました。40代
- 大変な状況を見たのに、清々しささを感じたのは、人間の可能性、力を合わせることに信じることの姿が見えたからだと思う。素晴らしい映画ありがとうございました。60代
- 見せてもらってよかった。たくさんの人、子供達、中村哲さんを思い出しました。日本は先進国として世界の子供達を救いたい。70代
- 生きることと学ぶことがつながっていることを改めて感じた。学びたい人が学べるようになるにはどうすればよいのだろう。日本の子ども達は恵まれている部分が多いけど、自主的に学び生かしていないのは残念だ。50代



## 第30回『佐賀市平和展』～語り継ごう、平和の尊さ～

### ＜佐賀県ユニセフ協会も協力出展＞

★8月6日（金）～8月9日（月）

★佐賀市立図書館2階 ロビーギャラリーにて

### ＜開会セレモニー＞

■今年は「佐賀市平和展」30回の節目の年でした。会場には「佐賀市平和展」の30年の歩みや歴史がパネルで展示されていました。

セレモニーでは、佐賀市長や佐賀市遺族連合会の代表者の挨拶やテープカットもありました。長年、佐賀県ユニセフ協会も「地雷レプリカ」展示等の協力をさせていただいているということでテープカットにも参加させていただきました。これからも“平和を希求するユニセフ”として参加させていただきたいと思います。

- 地雷レプリカ展示：
- パネル展示：「ユニセフによる戦後日本の子ども達への支援」
- SDG s 広報：SDG s 広報パネル、SDG s すごろくゲーム



【セレモニーでのテープカット】



### ＜ユニセフの展示・体験コーナー＞

■2021年は、終戦から数えて76年目になります。佐賀市平和展は、今年も、8月6日広島原爆投下の日をスタートに、8月9日長崎原爆投下までの4日間行われました。佐賀市では、“語り継ごう、平和の尊さ”をキーワードに、戦争の悲惨さを忘れず、平和の尊さを語り継ぎ、平和な世界を作っていこうとする気持ちを高め、共有する場として毎年行われています。

■今年も新型コロナウイルス感染予防対策をとりながら、ホールでは、遺族の語り部の方による戦争にまつわる話の収録ビデオや佐賀空襲を語り継ぐ会の皆さんによる朗読劇の収録映像、また、子ども向けのアニメなども放映されました。

■中央ギャラリーでは、原爆などで被災した資料などが数多く展示されていて、戦争の恐ろしさや悲惨さを痛感しました。

また、ロビーギャラリーではテラ・ルネッサンスさんから「アフリカの子ども兵」の動画やアフガニスタン復興支援に貢献されたベシャワール会の中村哲医師の偉業にまつわる動画などの紹介もあり、世界の平和についても知ることができました。

■佐賀県ユニセフ協会からは、「地雷レプリカ」とユニセフパネル「ユニセフによる戦後日本の子ども達への支援」や「SDG s パネル」を展示しました。また、子ども向けのSDG s コーナーでは、「SDG s すごろく」を体験してもらいました。子どもたちは、すごろく遊びを楽しみながら世界の様々な問題について、初めて知ったり、考えたりすることができました。



【地雷レプリカの説明】



【ユニセフパネルの展示】



【SDG s すごろく】

### 参加者の声

- ・すごろくがたのしかったですまた、9日にきたいです。今からもずっといろんな人の生活につながることにとりこんでいきたいとおもいます。
- ・日本では学校に入学できるのに、世界には小学校に入学できない子どもが5900万人もいることにびっくりしました。6年生を卒業したらランドセルをきふしよと思いました。
- ・子どもと平和や地球のことについて話す機会がないので、子どもと一緒に考えることができてよかったです。
- ・今日は足を運んだかいがありました。戦後生まれの私です。ミルクにはお世話になりました。



- ・10月17日（日）ユニセフのつどい 佐賀市民活動プラザ 7階  
講師：早川 千晶 氏 ※【新型コロナウイルス感染予防のため延期】  
演題：「ケニアのスラムに学校を作る～子どもたちの笑顔・命の輝き～」
- ・10月26日（火）～11月3日（水）SDG s 絵画展 佐賀県庁県民ホール  
（11月3日（水） 10：30～11：50 表彰式）
- ・10月28日（木）29日（金）日本ユニセフ協会からキャラバン隊来佐
- ・10月31日（日）2021国際フェスタ in 小城
- ・11月10日（水）17日（水）神崎市ドリームパーク出前授業
- ・12月上旬 第46回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド 募金活動

# unish の仲間たち!

## ユニセフ学生ボランティア かわべまな くろぎ かな 川辺 茉和さん、黒木 奏さん —佐賀大学に在学中—



現在、大学3年生の川辺 茉和さん、黒木 奏さん

「今日は、佐賀大学1年生の学生ですが、授業の空き時間にユニセフへボランティアに来ていいですか？」と二人が事務所を訪問してくれたのは、2年前の6月のことでした。

二人は、佐賀大学芸術地域デザイン学部、地域デザインコースに入学したばかり、川辺さんは長崎県、黒木さんは宮崎県の出身で佐賀の町もまだよく知らないうちに訪ねてきてくれました。

訪問のきっかけは、黒木さんが高等時代にも積極的にボランティアに参加していて、大学に入学しても続けたいという思いを同じ講義を受けていた川辺さんに声掛けをしたところ意気統合し、ユニセフのボランティアに行こうということになったそうです。

それからは、学業の合間に使用済み切手の整理や土・日の様々なイベント、募金活動にも参加をされています。

二人の若いセンスと行動力に当協会のモチベーションも上がります。

### <川辺 茉和さんから>

ついつも温かく迎え入れてくださる皆様のおかげで楽しく活動ができています。日々のボランティア活動やイベントでは常に新しい発見や学びがあり、どれほど恵まれた環境にいるのかを実感すると共に、世界の現実を知ることができます。その上で、自分が置かれた環境に感謝して活動と学びを続けていきたいと思っています。



【ユニセフシアター準備後にスタッフ弁当を食べながら話す二人】

### <黒木 奏さんから>

私は地元で「日向の景観守り隊」という、まちおこしゴミ拾い団体を立ち上げ、帰省時に活動しています。

しかし、最近は活動できていません。感染症の流行は、途上国にも甚大な被害をもたらしています。コロナの収束を願い、今はステイホームを心がけています。

## この2年間、事務所での使用済切手の整理や様々なイベントや募金活動にも参加してくれました。



◆2019年12月、全国一斉に行われた「ユニセフハンド・イン・ハンド募金活動」に参加しました。買い物に来られた親子にも募金の趣旨をやさしく伝えていました。



◆2021年7月、「ユニセフシアター」の進行を二人で担当してくれました。臨機応変な対応と落ち着いた進行ぶりに感謝しました。二人は、「風をつかまえた少年」の映画にも感動をしていました。

◆大学1年生の時は、月曜日の10時30分から12時までが講義のない空き時間ということで、毎週切手の整理のボランティアをしてくれました。



◆2019年6月、佐賀県ユニセフ協会創立25周年事業の一環に行った『ルワンダ料理教室』にも参加しました。その時習った料理を今でもよく作るそうです。



### 《二人からのコメント》

- ★奏さん・・・授業の合間しかボランティアに参加できない私たちがいつも優しく向かい入れてくださるユニセフの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです！これからも、活動に参加させていただき、たくさんのことをまなんでいきたいです！
- ★茉和さん・・・切手の整理ボランティアをするようになってから、自分が封筒に切手を貼る際には、端から5mm以上間隔をあけて貼るようになりました。また、自分に届いた郵便物は、切手に注意して封を切るようにしています。